



平仮名のルールを知ろう

目標：日本語には、濁音、促音、「を」「は」「へ」があることを知る。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 濁音がある平仮名の発音の練習をする。</p> <p>① 濁音の入った平仮名表を使って、教師が一文字ずつ指さしながら、「かきくけこ」「がぎぐげご」を順に読む音を聞く。</p> <p>② 一文字ずつ指しながら、教師と一緒に「かきくけこ」「がぎぐげご」を順に読む。</p> <p>③ 「さしすせそ」「ざじずぜぞ」、「たちつてと」「だちづでど」、「はひふへほ」「ばびぶべぼ」についても練習する。</p> <p>④ 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p>	<p>指導上の留意点・教材</p> <p>★濁音の入った平仮名表 濁音と清音が並んだものを用意する。</p>  <p>・国語の教科書（1年生）で、濁音について学習する教材を参考にする。</p> <p>★「かきくけこ、がぎぐげごの歌」 「あいうえおの歌」の濁音バージョン。</p>
5	<p>2 濁音の入った平仮名表を見て、同じ音の平仮名を読む。</p> <p>・「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」</p>	<p>・高学年の児童生徒には、使い分けを示す。 (例) つづく、はなぢ、ごはんぢゃわん 等</p>
15	<p>3 くっつき「を」「は」「へ」があること知り、使い方を練習する。</p> <p>① 教師が動作と一緒に、「を」「は」「へ」を使った短文を読むのを聞いて、まねして読む。 (例) 「て を あげます」 「ひらがな を かきます」 「えを かきます」</p> <p>② 二つの読み方をする「は」「へ」の言葉が入った短文を読む。 (例) 「はな は きれい」 「へや へ いきます」</p>	<p>・「を」「は」「へ」を読むことよりも、日本語には助詞があること、読み方が変わる平仮名があることの二点を理解させることをねらって指導する。</p> <p>★絵カードを使用する</p>  <p>(例) 花、部屋、絵 かきます</p>
10	<p>4 促音がある平仮名の発音の練習をする。</p> <p>○ 促音のない言葉とある言葉を続けて読む。 (例) 「きて」「きって」、「して」「しって」 「ねこ」「ねっこ」、「かた」「かった」等</p>	<p>・促音のある言葉を読む際には、次のような動作を付けるとよい。 「き」…手をたたく 「っ」…手を握る 「て」…手をたたく</p>

凡例：・留意点 ★教材

学校生活のルールを知ろう




目標：学校生活のルールを理解し、「いい／だめ」を表現できる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	1 絵カードで挨拶の復習をする。 (例)「おはようございます」「こんにちは」 「さようなら」「ありがとう」 等	・『たのしい1ねんせい』 【愛知県】 を参照する。
15	2 教室で使う指示の言葉を理解し、応答する。 ① 教師が絵カードを見せながら指示する言葉と同じ動作をするのを見る。 (例)「立ってください」 「座ってください」 ② 教師が絵カードを見せながら指示する言葉と同じ動作をするのをまねて、指示どおりの動作をする。 ③ 教師が絵カードを見せながら指示する言葉を聞いて、指示どおりの動作をする。 ④ 教師が指示する言葉を聞いて、指示どおりの動作をする。	★絵カードかイラスト(動作) ・指示どおり動作する、ということ意識しやすいように、指示の言葉を言った後、一瞬間を置いてから動作するように留意する。
20	3 「いい／だめ」を使用する場面を理解し、表現する。 ① 教師をまねて、「いい」「だめ」と言う。 ・ごみを床に投げる姿を見ながら「だめ」と言う。 ・ごみをごみ箱に入れる姿を見ながら「いい」と言う。 ② イラストを見ながら教師の質問に「いい、だめ」で答える。 ・イラストを見せながら「いい？だめ？」という教師の問いかけに「いい／だめ」で答える。 ③ 教師が見せるイラストを見て「いい／だめ」で答える。	★イラスト(正しい行いとよくない行いのイラスト) ・場面が学校(教室)であることを理解させるとよい。 ・イラストを示し「いい／だめ」を答えさせる。 ・テキストの場合は、指で押さえながら言う。 ・授業時間等、時間帯によって可否が変わることもあるが、ここではあまり触れないようにする。
5	4 イラストや先生の動作を見て、先生にお願いする表現を理解する。 (例)トイレに行きたい時は、「先生、トイレ」 のどが乾いた時は、「先生、みず」	

凡例：・留意点 ★教材

発音について知ろう

目標：日本語には、長音、拗音があることを知る。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 前回までの復習をする。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 濁音の入った「あいうえおの歌」を歌う。</p>	<p>★「あいうえおの歌」(1 参照)</p> <p>★濁音の入った平仮名表(6 参照)</p> <p>★濁音の入った「あいうえおの歌」 清音と濁音の両方が入った「あいうえおの歌」</p>
20	<p>2 長音がある平仮名の発音の練習をする。</p> <p>① 長音のない言葉とある言葉を続けて読む。 (例)「おばさん」「おばあさん」「おじさん」「おじいさん」</p> <p>② 長音のある言葉を読む。 ・絵の裏に文字が書いてあるカードで、物の名前を覚えながら読む練習をする。 (例)とけい、すうじ、ふうせん せんせい、とうふ、すいとう こおり、さんすう、ぞうきん</p>	<p>・東京書籍『あたらしいこくごー上』の「おばさんとおばあさん」を参照する。</p> <p>★絵カード(裏に文字)</p> <p>表  裏 とけい</p> <p>・高学年の児童生徒には「え」の長音は「い」「お」の長音は「う」と書くことが多いことを説明してもよい。</p>
20	<p>3 拗音がある平仮名の発音の練習をする。</p> <p>① 教師が「きや」の文字カードを数回早く読むのに続いて、「きゃ」の文字カードを読むのを聞く。</p> <p>② 「きや」と「きゃ」の文字カードを教師に続けて読む。</p> <p>③ 「きゅ」「きょ」についても練習する。</p> <p>④ 拗音の表を読む。</p> <p>⑤ 「しゃ、しゅ、しよの歌」を歌う。</p> <p>⑥ 拗音ある言葉を読む (例) きやべつ、きゅうり、きょうし しゃかい、しゅうじ、しょうがっこう 等</p>	<p>・国語の教科書(1年生)で、拗音について学習する教材を参考にする。</p> <p>★文字カード(拗音)</p> <p>表  裏 </p> <p>★「しゃ、しゅ、しよの歌」 『きらきら星』の替え歌で、拗音を順に歌っていく歌</p>

凡例：・留意点 ★教材

数を読もう 1

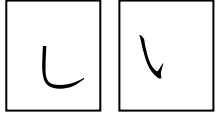
目標：1～10の数を読むことができ、5までの数を使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	1 前回までの復習をする。 ① 授業で使う言葉の復習をする。 (例) 「立ちます」、「座ります」、「読みます」 ② 挨拶の復習をする。 (例) 「こんにちは」、「さようなら」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 「授業の言葉を覚えよう」の復習をする。 ・ 3 「挨拶をしよう」の復習をする。
10	2 1～10の数の数え方を練習する。 ① 1～10の数字を母語で確認する。 ② 数字のカードを見ながら、教師のあとについて1～10を繰り返す。 ③ コインの表に「1」、裏に「2」と書かれた数字のどちらかを見て、書かれている数字(1か2)を答える。 ④ ③の活動を、数字を変えて行う (例) 「3/4」、「5/1」、「2/3」等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ★数字のカード 1～10のカード </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ★コイン 表裏に「1/2」など、異なる数字が書かれた物を用意する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4の読み方については、本時では「よん」のみを扱う。
10	3 カードめくりゲームを行う。 ・ 裏を向けて置かれた1から5カードをめくり、めくったカードの数字を正しく言えたらもらえるゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の様子を見て、カードの数を調整する。
10	4 つかみ取りゲームをする。 ・ 赤、青、黄のカラーボールを片手でつかみ、それぞれの色の数を正しく数えられたら正解というゲームをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ★つかみ取りゲーム 赤、青、黄のカラーボールを各5個入れた、箱を用意する </div>
10	5 簡単な足し算、引き算を日本語で読む。 ① 四角の中に数を記入する。 (例) $1 + 2 = \square$ $5 - 4 = \square$ ② 計算式と答えを読む。	

凡例：・留意点 ★教材

簡単な平仮名を覚えよう

目標：「し・い・う・く・こ」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
10	<p>1 「し・い・う・く・こ」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「し・い・う・く・こ」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「し・い・う・く・こ」を読むのに続いて、「し・い・う・く・こ」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「し・い・う・く・こ」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p>
10	<p>2 「し・い・う・く・こ」の書き方を練習する。</p> <p>① 教師のまねをして、指で書く。</p> <p>② ノートに書いて練習する。</p>	<p>・書き順に留意する。</p>
10	<p>3 「し・い・う・く・こ」の入っている言葉を読む。</p> <p>① いし、うし、くし、こしの実物や絵カードを見て、物の名前を答える。</p> <p>② 石の実物を見て、平仮名表の中から「い、し」の字を探す。他の言葉も同様に探す。</p>	<p>・石やくしなど「し・い・う・く・こ」の入っている言葉の実物や絵と文字の入った絵カード等を用意する。</p>
5	<p>4 平仮名当てゲームをする。</p> <p>① 半分字が隠れている平仮名を見て、何の字が隠れているか答える。 (例) し、い、う、く、こ、</p> <p>② 隠れていた平仮名をノートに書く。</p>	<p>★平仮名当てゲーム 半分隠れた平仮名を当てるゲーム。 (例) </p>
10	<p>5 今日の学習の復習をする。</p> <p>① 教師が言った言葉（いし、くし、うし等）を聞いて、実物や絵を指さす。</p> <p>② 実物や絵を見て、教師の「何ですか」という質問に児童生徒が、「いし、くし、うし等」と答える。</p> <p>③ 実物や絵を見て、「いし、くし、うし等」をノートに平仮名で書く。</p>	<p>・石やくしなど「し・い・う・く・こ」の入っている言葉の実物やイラスト等を用意する。</p>

凡例：・留意点 ★教材

勉強道具の名前を覚えよう


目標：勉強道具について、尋ねたり答えたりできる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	1 前時までの復習をする。 ① 挨拶の復習をする。 (例)「おはようございます」「さようなら」等 ② 授業で使う言葉の復習をする。 (例)「読んでください」「書いてください」等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3「挨拶をしよう」の復習をする。 ・ 1「授業の言葉を覚えよう」の復習をする。
15	2 勉強道具の名前を理解し、表現する。 ① 教師が勉強道具を使う動作をしながら、その名前の発音を聞く。 (例)「鉛筆」、「消しゴム」、「本」、「ノート」等 ② 教師のあとについて、その勉強道具の名前を繰り返す。 ③ 教師が見せる勉強道具の名前を答える。 ④ 教師が示す絵カードに描かれた勉強道具の名前を答える。 ⑤ 鉛筆か消しゴムか当てるゲームをする。 ・教師が一瞬見せる実物を見て当てる。 ・箱の中の実物を、振った音を聞いて当てる。	<ul style="list-style-type: none"> ★鉛筆、消しゴム、本、ノート等の実物や絵カード(イラスト)等を用意する。 ・ここでは「何?」と質問せず、「鉛筆?消しゴム?」と質問する。 ・ゲームとして楽しい雰囲気です。
10	3 勉強道具の質問に回答する。 ① 教師が「何?」と言いながら見せる勉強道具の名前を言う。 (例)「鉛筆」、「消しゴム」、「本」、「ノート」等 ② 教師が「何?」と言いながら示す絵カードに描かれた勉強道具の名前を言う。 ③ 「何?」という質問を使って、2-⑤と同じゲームする。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者二人で見本を見せてから行うとよい。 ・「何?」という質問を意識して使うようにする。
10	4 友達や教師に勉強道具の質問をする。 ① 鉛筆、消しゴム、ノート、本のどれか一つを見えないように袋に入れ、「何?」と他の児童生徒や教師に順番に質問する。 ② 正解が出たら、袋から取り出してみんなに示す。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が見本を見せてから行うとよい。 ・質問された児童生徒には、袋の中を見て答えさせる。
5	5 まとめをする。 ① 勉強道具のシルエットを見て答える。 ② 教師が落とした物の音を聞いて答える。	<ul style="list-style-type: none"> ★イラスト(文房具のシルエット)

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう 1

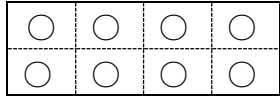
目標：「あ・お・え」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	1 「あ・お・え」の読み方を練習する。 ① 「あいうえおの歌」を歌う。 ② 教師が「あ・お・え」を読むのを聞く。 ③ 教師が「あ・お・え」を読むのに続いて、「あ・お・え」を読む。 ・2～3回繰り返す。 ④ 「あ・お・え」を平仮名表の中から探して、印を付ける。 ⑤ 平仮名表を見ながら、あ行、か行の平仮名カードを並べる。	指導上の留意点・教材 ★平仮名表 (1 参照) ★「あいうえおの歌」 (2 参照) ★平仮名カード 平仮名が一文字ずつ書かれたトランプのようなカード
5	2 「あ・お・え」の書き方を練習する。 ① 教師のまねをして、指で書く。 ② ノートに書いて練習する。	・一画ずつ、書き順を意識して練習させる。
10	3 「あ・お・え」の入っている言葉を読む。 ① 実物や絵カードを見て、物の名前を答える。 ② 足の絵カードを見て、平仮名表の中から「あ、し」の字を探す。 ③ 他の言葉も同様に探す。 (例) しお、あし、いえ、いし、うし 等	・足や家など「あ・お・え」の入っている言葉の実物や絵カード(イラスト)等を用意する。 ・前回勉強した言葉の復習も兼ねて行う。
5	4 平仮名当てゲーム2をする。 ① 半分字が隠れている絵を見て、何の言葉が隠れているか答える。 (例) あし、しお、いえ、いし、うし、くし ② 隠れていた言葉をノートに書く。	★平仮名当てゲーム2 半分字の隠れた絵カードを見て、何の言葉が書かれているか当てるゲーム (例)  し
10	5 今日の学習の復習をする。 ① 教師が言った言葉(あし、しお、いえ等)を聞いて、実物や絵を指さす。 ② 実物や絵を見て、教師の「何ですか」という質問に児童生徒が、「あし、しお、いえ等」と答える。 ③ 実物や絵を見て、「あし、しお、いえ等」をノートに平仮名で書く。	・足や家など「あ・お・え」の入っている言葉の実物や絵カード(イラスト)等を用意する。

凡例：・留意点 ★教材

数を読もう2

目標：0と6～10の数を読み、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<p>指導上の留意点・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
10	<p>3 0と6～10の数字の数を練習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 1～10の数字を母語で数える。 ② 数字のカードを見ながら、教師のあとについて1～10の数字を繰り返す。 ③ コインの表に「6」、裏に「7」と書かれた数字のどちらかを見て、書かれている数字(6か7)を答える。 ④ ③の活動を、数字を変えて行う。 (例)「8/9」、「10/0」、「5/7」等 	<p>★数字カード (9 参照)</p> <p>★コイン (9 参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7は「なな」、9は「きゅう」と読み方を教える。 ・0は「ぜろ」と読むことを教える。
5	<p>4 カードめくりゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裏を向けて置かれた0、6～10のカードをめくり、めくったカードの数字を正しく言えたらもらえるゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9の3、カードめくりゲームを参照する。
5	<p>5 数を当てるゲームをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師が三つ折りにした紙の真ん中に開けた穴が、紙を開くといくつあるかを予想して答える。 ② ①の穴の数を数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1?、2?、……、8?」と順に聞く。 
10	<p>6 足し算、引き算の計算式を声を出して読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な足し算、引き算の式と答えを教師のあとについて繰り返す。 (例) $3 + 5 = 8$ $7 - 1 = 6$ 	<ul style="list-style-type: none"> ・3「いい/だめ」の復習を兼ねて、児童生徒に回答の正誤を聞き確かめるのもよい。
10	<p>7 1～10の数字を書く練習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師が1～10の数字を黒板に書くのを見て、ノートに1～10の数字を書く。 ② 数字の書き方の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆順に気を付ける。 1、5、7等を下から書く児童生徒がいるので注意する。

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう2

目標：「か・き・け」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「か・き・け」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「か・き・け」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「か・き・け」を読むのに続いて、「か・き・け」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「か・き・け」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、あ行、か行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ あ行、か行の平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p> <p>★平仮名カード（12 参照）</p>
5	<p>2 「か・き・け」の書き方を練習する。</p> <p>① 教師のまねをして、指で書く。</p> <p>② ノートに書いて練習する。</p>	<p>・一画ずつ、書き順を意識して練習させる。</p>
10	<p>3 「か・き・け」の入っている言葉を読む。</p> <p>① 実物や絵カードを見て、物の名前を答える。</p> <p>② おかしの絵カードを見て、平仮名表の中から「お、か、し」の字を探す。</p> <p>③ 他の言葉も同様に探す。 (例)き、け、かい、えき、いけ、しか 等</p>	<p>・おかしや貝など「か・き・け」の入っている言葉の実物や絵カード（イラスト）等を用意する。</p>
5	<p>4 平仮名当てゲームをする。</p> <p>① 半分字が隠れている平仮名を見て、何の字が隠れているか答える。 (例)あ、い、う、え、お、か、き、く、け、こ、し</p> <p>② 隠れていた平仮名をノートに書く。</p>	<p>★平仮名当てゲーム（10 参照）</p> <p>・前回までに勉強した文字の復習も兼ねて行う。</p>
10	<p>5 今日の学習の復習をする。</p> <p>○ 絵を見ながら、しりとりをする。 (例)あしーしかーかいーいしーしかくーくしーしおーおかしーしかーかいーいえーえきーき 等</p>	

凡例：・留意点 ★教材

「ある／ない」を使おう

目標：「ある／ない」の意味を理解し、表現できる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
10	<p>3 「ある／ない」の意味を理解し、表現する。</p> <p>① 教師の手の中のコインが「あるか、ないか」を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がコインを隠して片手で握り、ない方の手を見せながら「ない」、ある方を見せながら「ある」と言うのを聞く。 ・教師がどちらの手にもコインを隠したかを当てる。 <p>② 手の中のコインが「ある?」「ない?」と教師や他の児童生徒に質問する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★コイン 手の中に入る大きさのものを使用する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・数回繰り返し、言い慣れさせる。
10	<p>4 「ある／ない」を使う練習をする。</p> <p>① イラストを見て、「ある」「ない」を使い分ける。 (例)ジュースの瓶、お菓子の箱、財布の中</p> <p>② 「ある」「ない」の文字をノートに書く。</p>	<p>★イラスト(〇〇が入っている絵と空の絵)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名の定着状況を見て書かせる。
15	<p>5 名詞+「ある／ない」の質問に答える。</p> <p>① 実物やイラストを見せながら「名詞+ある?」と質問する教師に、「ある／ない」で答える。 (例)「鉛筆ある?」→「ある／ない」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実物、イラストを用意する。 ・イラストを見て応答練習をする。
5	<p>6 4の「名詞+ある?」と「ある／ない」の応答をノートに書く。 (例)「鉛筆ある?」→「ある／ない」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を減らすなど、書きたい意欲を大切にする。 ・時間がなければ宿題にしてもよい。

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう3

目標：「さ・す・ん」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「さ・す・ん」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「さ・す・ん」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「さ・す・ん」を読むのに続いて、「さ・す・ん」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「さ・す・ん」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、か行、さ行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ か行、さ行の平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p> <p>⑦ 「さ・す・ん」の書き方を練習する。 ・教師のまねをして、指で書く。 ・ノートに書いて練習する。</p>	<p>★平仮名表 (1 参照)</p> <p>★「あいうえおの歌」 (2 参照)</p> <p>★平仮名カード (12 参照)</p>
15	<p>2 「さ・す・ん」の入っている言葉を読んで、書く。</p> <p>① 実物や絵カードを見て、物の名前を答える。 (例) かさ、いす、うんこ 等</p> <p>② かさの絵カードを見て、平仮名表の中から「かさ」の字を探す。</p> <p>③ 他の言葉も同様に探す。</p> <p>④ 実物や絵カードを見て、その物の名前の平仮名を書く。 (例) くさ、さい、すいか、しけん 等</p>	<p>★かさやいすなど「さ・す・ん」の入っている言葉の実物や絵カード(イラスト)等を用意する。</p>
10	<p>3 平仮名当てゲームをする。</p> <p>① 半分字が隠れている平仮名を見て、何の字が隠れているか答える。 (例) あ、い、う、え、お、か、き、く、け、こ、さ、し、す、ん</p> <p>② 隠れていた平仮名をノートに書く。</p>	<p>★平仮名当てゲーム (10 参照)</p> <p>・前回までに勉強した文字の復習も兼ねて行う。</p>
5	<p>4 今日の学習の復習をする。</p> <p>○ 平仮名とローマ字を線で結ぶ。</p>	<p>・ローマ字が未習の児童生徒には、教師がローマ字を読む。</p> <p>・時間を測ってもよい。</p>

凡例：・留意点 ★教材

数を読もう3

目標：11～19の数を読み、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
10	<p>3 11～19の数の数え方を練習する。</p> <p>① 10のカードの0の部分に1のカードを合わせて11を作り、「1、10、11」と教師が読むのに続けて、「1、10、11」と言う。</p> <p>② 教師が「$10 + 1 = 11$」の式を読むのに続いて、「$10 + 1 = 11$」を読む。</p> <p>③ テキストに書いてある数字を読む練習をする。 (例) 18、16、14、10、8</p>	<p>★数字カード (9 参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10より1多いのが、11ということを構造的に理解させる。
15	<p>4 いくつあるか数える練習をする。</p> <p>(例) ・12本の実物の鉛筆 ・16人の子供のイラスト ・20個の実物の積み木 等</p>	<p>★イラスト (複数描かれた物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、声に出して数えさせる。 ・重なっていると数えにくい積み木等は、横に並べて数える。
10	<p>5 11～19までの数を読む。</p> <p>① 数字カードを声に出して読む。</p> <p>② 二組の数字カードで神経衰弱をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神経衰弱でめくったカードも声を出して読ませる。

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう4

目標：「せ・そ・た」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「せ・そ・た」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「せ・そ・た」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「せ・そ・た」を読むのに続いて、「せ・そ・た」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「せ・そ・た」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、さ行、た行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ さ行、た行の平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p> <p>⑦ 「せ・そ・た」の書き方を練習する。 ・教師のまねをして、指で書く。 ・ノートに書いて練習する。</p>	<p>★平仮名表 (1 参照)</p> <p>★「あいうえおの歌」 (2 参照)</p> <p>★平仮名カード (12 参照)</p>
15	<p>2 「せ・そ・た」の入っている言葉を読んで、書く。</p> <p>① 実物や絵カード (イラスト) 等を見て、物の名前を答える。 (例) あせ、うそ、した 等</p> <p>② あせの絵カード (イラスト) 等を見て、平仮名表の中から「あせ」の字を探す。</p> <p>③ 他の言葉も同様に探す。</p> <p>④ 実物や絵カード (イラスト) 等を見て、その物の名前の平仮名を書く。 (例) せんたく、たんす、あそこ、そこ、ここ 等</p>	<p>・かさやいすなど「せ・そ・た」の入っている言葉の実物や絵カード (イラスト) 等を用意する。</p> <p>・「あそこ／そこ／ここ」は母語で対訳を探しておくとうい。</p> <p>・「そこ／ここ」と指示して、物を置かせる体験をさせても良い。</p>
10	<p>3 平仮名当てゲーム2をする。</p> <p>① 半分字が隠れている絵を見て、何の言葉が隠れているか答える。 (例) あせ、うそ、うえ、した、えき、こん、す、さ、せ、そ、た、け</p> <p>② 隠れていた言葉をノートに書く。</p>	<p>★平仮名当てゲーム (12 参照)</p>
5	<p>4 今日の学習の復習をする。</p> <p>① 学習した言葉のローマ字を平仮名にする。</p> <p>② 絵と文字を線で結ぶ。</p>	<p>・ローマ字が未習の児童生徒には、教師がローマ字を読む。</p>

凡例：・留意点 ★教材

「いる／いない」を使おう

目標：「いる・いない」の意味を理解し、表現できる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
25	<p>3 「いる／いない」の意味を理解し、表現する。</p> <p>① 教師の演技から「いる／いない」の意味を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が、目が悪い演技をした後、眼鏡をかけながら「いる」と言うのを聞く。 ・教師が、目が良い演技をした後、眼鏡を見せながら「いない」と言うのを聞く。 ・教師が、眼鏡を見せながら「いる?」「いない?」と質問するのを聞いて、「いる／いない」と答える。 ・他の物を使って、同様の活動を繰り返す。 (例) 虫眼鏡、マスク、タオル、うちわ等 <p>② 教師が示すイラストを見て、教師の「いる? いない?」に答える。 (例) スパゲッティにえんぴつ／フォーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★眼鏡や本は本物を用いて、いるか、いないか、分かるように演技する。 ・質問されていない児童生徒も一緒に答えるようにすると盛り上がる。 ・その物が、いるか、いないか、分かるように演技する。
15	<p>4 「〇〇いる?」の質問に答える。</p> <p>① 教師が示すイラストを見て、教師の「名詞＋いる?」に、「いる／いない」で答える。 (例) ・晴れた日に「かさいる?」 ・円を描くときに「コンパスいる?」 ・明るい部屋で「懐中電灯いる?」 等</p> <p>② 教師の指さしたものに、「いる」「いない」で答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実物(かさ、サングラス、コンパス、懐中電灯)や絵カード(イラスト)等を見せながら、名前を紹介する。

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう5

目標：「ち・つ・て」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「ち・つ・て」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「ち・つ・て」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「ち・つ・て」を読むのに続いて、「ち・つ・て」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「ち・つ・て」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、さ行、た行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ さ行、た行の平仮名カード二組でばば抜きをする。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p> <p>★平仮名カード（12 参照）</p>
15	<p>2 「ち・つ・て」の入っている言葉を書く。</p> <p>① 「ちかてつ」など、「ち・つ・て」が入っている言葉の実物や絵カードを見て、物の名前を平仮名で書く。 (例) くつ、き、うえき、つち、ちかてつつき、たすけて、いたい、ち</p> <p>② 「助けて」と叫ぶ練習をする。</p>	<p>・「ちかてつ」は、写真があった方が分かりやすい。</p> <p>★実物や絵カード（イラスト）等を用意する。</p>
10	<p>3 平仮名を読んだり、書いたりする練習をする。</p> <p>① ローマ字を平仮名にする。 (例) き、うえき、いた、くつ、くつしたあし、ち、つき、くち、て、いすつくえ、あし、かた、こし</p> <p>② 算数（数学）で使う言葉を平仮名で書く。 (例) てん、しかく、せん、てんせん、えんさんかく 等</p>	<p>・ローマ字が未習の児童生徒には、教師がローマ字を読む。</p>
5	<p>4 今日の学習の復習をする。</p> <p>○ 学習した言葉のローマ字を平仮名にする。</p>	<p>・既習平仮名のまとめとする。</p> <p>・書けなかった字をチェックしておく。</p>

凡例：・留意点 ★教材

数を読もう4

目標：10、20、30…90の数を読み、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<p>指導上の留意点・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
10	<p>3 10、20、30…90の数の数え方を練習する。</p> <p>① 10のカードの1の部分に2のカードを合わせて20を作り、「2、20」と教師が読むのに続けて、「2、20」と言う。</p> <p>② ①と同様に、「3と30」、「4と40」…「9と90」を言う練習をする。</p> <p>③ 掛け算の数字部分だけ教師のあとについて数字を読む。 (例) $2 \times 10 = 20$、$3 \times 10 = 30$ 等</p>	<p>★数字カード (9 参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10、20、30…90の言い方を構造的に理解させる。
20	<p>4 10～90の数字を読む練習をする。</p> <p>① 簡単な足し算、引き算の式と答えを教師のまねをして読む。 (例) $10 + 10 = 20$、$20 + 10 = 30$ $30 + 10 = 40$ 等</p> <p>② 数字のカードの10～90の数字を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順番に読む。 ・バラバラにして読む。 ・言われたカードを取る。 <p>③ 10～90の二組の数字のカードで神経衰弱をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の状況によって、数字の部分だけ読ませてもよい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>★数字のカード 10～90のカード</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・めくったカードは声に出して読ませる。
10	<p>5 20と12、50と15などを聞き分ける練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が指示した金額になるようおもちゃのお金を出す。 (例)・教師が20と指示したら、20円を出す。 ・教師が12と指示したら、12円を出す。 ・50と15、30と13なども練習する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>★おもちゃのお金 算数セットにあるおもちゃのお金を使用する。手作りしてもよい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・慣れてきたら「～円」という言い方にしてもよい。

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう6

目標：「と・な・に」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材										
15	<p>1 「と・な・に」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「と・な・に」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「と・な・に」を読むのに続いて、「と・な・に」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「と・な・に」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、た行、な行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ た行、な行の平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p> <p>★平仮名カード（12 参照）</p>										
15	<p>2 「と・な・に」の入っている言葉を読んで、書く。</p> <p>① 「おとこ」「や」「おんな」など「と・な・に」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、まねして読む。 (例)おとこ、おんな、あな、なに 等</p> <p>② ノートに平仮名を書く。</p>	<p>・「おとこ」「や」「おんな」等の絵と文字の入った絵カードを用意する。</p>										
15	<p>3 平仮名を読んだり、書いたりする練習をする。</p> <p>① ローマ字を平仮名にする。 (例) ta na→たな a o→あお en→えん</p> <p>② 10文字程度の平仮名とローマ字を線で結ぶ。 (例) <table style="display: inline-table; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">な</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">に</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">と</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">て</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ち</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">た</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">つ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">そ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">せ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">す</td> </tr> </table> ni to se ta chi na su so te tsu ・タイムトライアルで時間を測る。</p>	な	に	と	て	ち	た	つ	そ	せ	す	<p>・ローマ字が未習の児童生徒には、教師がローマ字を読む。</p> <p>★ストップウオッチ</p> <p>・教師が音読して母語で音を記入させてから始めてもよい。</p> <p>・児童の習熟度に合わせ、難易度を文字数や繰り返しの数で調整する。</p>
な	に	と	て	ち	た	つ	そ	せ	す			

凡例：・留意点 ★教材

「ぼく／わたし」を使おう

目標：「ぼく」、「わたし」を理解して使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<p>指導上の留意点・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
10	<p>3 「ぼく／わたし」の意味を理解し、使うことができる</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師が自分の写真を見せて「ぼく／わたし」と言うのを聞く。 ② 教師が男子の仮面を付けて「ぼく」、女子の仮面を付けて「わたし」と言うのを聞く。 ③ イラストを用いて、「ぼく／わたし」の練習をする。 	<p>★仮面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の写真を仮面にしてもよい。
15	<p>4 「ぼく／わたし」、家族の呼び方を練習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師が、教師の家族写真を見せながら、「ぼく／わたし」「おかあさん」「おとうさん」など、家族の呼び方を話すのを聞く。 ② 「誰？」という家族写真の質問に対して、教師が「ぼく／わたし」「おかあさん」「おとうさん」と、家族の呼び方を話すのを聞く。 ③ 教師の「誰？」という質問に答える。 (例)「先生」「先生のお父さん」「先生のお母さん」等 	<p>★教師の家族写真</p> <p>教師の子供の頃の写真がよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師二人で見本を見せた後、児童生徒にも「誰？」と質問させる。
10	<p>5 「ぼく／わたし」を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の「誰？」という質問に答える。 (例)ぼく／わたし、お父さん、お母さん等 	<p>★イラスト（家族）</p>
5	<p>6 「ぼくの／わたしの」を練習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師が自分の鉛筆を見せて、「ぼくの／わたしの」と言う表現を聞く。 ② 教師の「これは？」という質問に、「ぼくの／わたしの」と答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の鉛筆と教師の鉛筆を混ぜて持つておく。 ・「これ、だれの？」は、47で勉強するので、ここでは使わない。

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう7

目標：「ぬ・の・ね」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「ぬ・の・ね」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「ぬ・の・ね」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「ぬ・の・ね」を読むのに続いて、「ぬ・の・ね」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「ぬ・の・ね」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、た行、な行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ た行、な行の平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p> <p>★平仮名カード（12 参照）</p>
15	<p>2 「ぬ・の・ね」の入っている言葉を読んで、書く。</p> <p>① 「いぬ」や「かね」など「ぬ・の・ね」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、まねして読む。 (例)いぬ、かね、きのこ 等</p> <p>② ノートに平仮名「ぬ・の・ね」を書く。</p>	<p>・絵と文字の入った絵カードを用意する。</p>
15	<p>3 平仮名を覚える練習をする。</p> <p>① 学習した平仮名を二つ使って、言葉を作って読む。</p> <p>② 学習した平仮名を、ローマ字を見て書く。 (例)a i u e o ka ki ku ke ko sa shi su se so ta chi tsu te to na ni nu ne no n</p>	<p>・ローマ字が未習の児童生徒には、教師がローマ字を読む。</p>

凡例：・留意点 ★教材

数を読もう5

目標：20～99の数を読み、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材																																																																																																				
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<p>指導上の留意点・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。 																																																																																																				
20	<p>3 21、22、23の数の数え方を練習する。</p> <p>① 20のカードの0の部分に1のカードを合わせて21を作り、「21」と教師が読むのにつづけて、「21」と言う。</p> <p>② イラストの数字を読む。 (例)20と2で22、23、24…30</p> <p>③ 0～99の数字の読み方を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0～99の表を指さしながら、順番に数字を読む教師に続いて、数字を読む。 教師が言った数字を0～99の表から探して指さし、読む。 <p>④ 41～49、61～64、75～79等の区切りで数字を読む。</p>	<p>★数字カード (9 21 参照)</p> <p>★0～99の表</p> <table border="1"> <tr><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td>30</td><td>31</td><td>32</td><td>33</td><td>34</td><td>35</td><td>36</td><td>37</td><td>38</td><td>39</td></tr> <tr><td>40</td><td>41</td><td>42</td><td>43</td><td>44</td><td>45</td><td>46</td><td>47</td><td>48</td><td>49</td></tr> <tr><td>50</td><td>51</td><td>52</td><td>53</td><td>54</td><td>55</td><td>56</td><td>57</td><td>58</td><td>59</td></tr> <tr><td>60</td><td>61</td><td>62</td><td>63</td><td>64</td><td>65</td><td>66</td><td>67</td><td>68</td><td>69</td></tr> <tr><td>70</td><td>71</td><td>72</td><td>73</td><td>74</td><td>75</td><td>76</td><td>77</td><td>78</td><td>79</td></tr> <tr><td>80</td><td>81</td><td>82</td><td>83</td><td>84</td><td>85</td><td>86</td><td>87</td><td>88</td><td>89</td></tr> <tr><td>90</td><td>91</td><td>92</td><td>93</td><td>94</td><td>95</td><td>96</td><td>97</td><td>98</td><td>99</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 数字カードで、ばばぬきや神経衰弱等のゲームを行って、数字を読む練習をするのもよい。 	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9																																																																																													
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19																																																																																													
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29																																																																																													
30	31	32	33	34	35	36	37	38	39																																																																																													
40	41	42	43	44	45	46	47	48	49																																																																																													
50	51	52	53	54	55	56	57	58	59																																																																																													
60	61	62	63	64	65	66	67	68	69																																																																																													
70	71	72	73	74	75	76	77	78	79																																																																																													
80	81	82	83	84	85	86	87	88	89																																																																																													
90	91	92	93	94	95	96	97	98	99																																																																																													
20	<p>4 年齢や家族についての質問に答える練習をする。</p> <p>① 教師が誕生日の歌を歌った後、「誕生日」「ぼく／わたし〇〇さい」と言うのを聞き、「ぼく／わたし〇〇さい」と繰り返す。</p> <p>② 家族の呼び方を練習する。</p> <p>③ 家族を簡単な絵に描き、紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おにいさん、何歳？」等の教師の質問に答える。 <p>④ 家族の年齢を紹介する。 (例)「おかあさん。〇〇さい。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、児童生徒が何歳か調べておく。 21を参照する。 お兄さん、妹など家族の呼称を教える。 イラストに年齢を書き込ませるのもよい。 																																																																																																				

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう8

目標：「は・ほ・へ」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「は・ほ・へ」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「は・ほ・へ」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「は・ほ・へ」を読むのに続いて、「は・ほ・へ」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「は・ほ・へ」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、は行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ は行の平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p> <p>★平仮名カード（12 参照）</p>
15	<p>2 「は・ほ・へ」の入っている言葉を読んで、書く。</p> <p>① 「はし」「や」「ほん」など「は・ほ・へ」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、まねして読む。 (例)はし、ほん、へそ</p> <p>② ノートに平仮名「は・ほ・へ」を書く。</p> <p>③ 教師が絵カードの名前を読むのを聞いて、まねをして読み、ノートに平仮名で書く。 (例)は、はこ、はた、はち、はな ほし、ほん、えほん、へそ 等</p>	<p>・絵と文字の入った絵カードを用意する。</p>
15	<p>3 平仮名を使う練習をする。</p> <p>① 半分隠れている平仮名は何か考えて言葉を書く。文字と絵を線で結ぶ。 (例)はこ、ほん、へそ、ほし、はた、はな はち、ねこ、いぬ</p> <p>② 学習した平仮名とローマ字を線で結ぶ。 (例)は・ほ・け・た・な・ち へ・の・ぬ・ね・は・ほ・と と・へ・ほ・て・ね・さ・ち</p>	<p>・平仮名当てゲーム（10 参照）のようなゲームを行ってもよい。</p> <p>・ローマ字が未習の児童生徒には、教師がローマ字を読む。</p>

凡例：・留意点 ★教材

指示の言葉を聞いて動こう

目標：指示の言葉を理解し、動作で応答できる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	1 挨拶をする。 ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 2 絵本の朗読を聞く。 ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。	・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
20	3 「来て」「見て」「聞いて」等の意味を理解し、表現する。 ① 万華鏡等をのぞいている教師の「来て、来て」という指示を聞いて、近くに移動する。 ② 万華鏡等を指さし、「見て、見て」という教師の指示を聞いて、万華鏡等をのぞく。 ③ ヘッドフォンで音楽を聞くジェスチャーをする教師の「聞いて」という指示を聞いて、ヘッドフォンで音楽を聞くジェスチャーをする。 ④ 教師が平仮名表のあ行を指さし、「読んで」という指示を聞いて、「あいうえお」と読む。 ⑤ 教師が絵カードを見せながら「来て、見て、聞いて、読んで」と言うのを聞き、繰り返す。 ⑥ 教師が黒板に書いた、「きて、みて、きいて、よんで」を読むのを聞き、繰り返す。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ★万華鏡等 本物があると、より楽しい雰囲気になる。双眼鏡でもよい。 </div> ・授業開始の合図で使う「 <u>立</u> ってください」「 <u>座</u> ってください」と同じ指示の言葉だと児童生徒に理解させる。 ★絵カード（動作を表す） ・来る、見る、聞く、読む
20	4 ジェスチャーを用いた練習をする。 ① 教師がジェスチャーしながらする指示の言葉を当てる。 ・教師がジェスチャーをした後、黒板に書いた「きて、みて、きいて、よんで、かいて」の言葉を指しながら、「どれ？」の質問に答える。 ② 教師がジェスチャーしながら行う指示にしたがって、ジェスチャーで応える。 ③ 絵カードを見て、動作を言う練習をする。 ④ 「きて <u>ください</u> 、みて <u>ください</u> 等、丁寧な言い方の練習をする。	・国によってジェスチャーの意味が違うものもあるので気を付ける。 ・年齢差や日本語の習熟度に配慮する。

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう 9

目標：「ひ・ふ・ま」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「ひ・ふ・ま」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「ひ・ふ・ま」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「ひ・ふ・ま」を読むのに続いて、「ひ・ふ・ま」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「ひ・ふ・ま」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、は行、ま行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ は行、ま行の平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p> <p>★平仮名カード（12 参照）</p>
25	<p>2 「ひ・ふ・ま」の入っている言葉を読んで、書く。</p> <p>① 「ふね」や「うま」など「ひ・ふ・ま」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、まねして読む。 (例)ひ、ふね、うま 等</p> <p>② ノートに平仮名「ひ・ふ・ま」を書く。</p> <p>③ 教師がイラストの名前を読むのを聞いて、まねをして読み、ノートに平仮名で書く。 (例)ひく、おす、ふく 等</p> <p>④ 対になる形容詞を教師が一組ずつ読むのを聞いて、まねをして読む。 ・2～3回繰り返す。 (例)たかい⇔ひくい ふとい⇔ほそい ふかい⇔あさい うまい⇔へた</p>	<p>・絵と文字の入った絵カードを用意する。</p> <p>・「広い／狭い」等が分りにくいようなら、広い教室や狭い教室等、実際に見せるとよい。</p>
5	<p>3 学習した平仮名を書く練習をする。</p> <p>○ ローマ字を平仮名にする。 ・「あ～ほ」までの平仮名と「ん」を書く。</p>	<p>・ローマ字が未習の児童生徒には、教師がローマ字を読む。</p>

凡例：・留意点 ★教材

「こう?」「そう/ちがう」を使おう

目標:「こう?」とやり方を尋ねたり、「そう/ちがう」と答えたりすることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
20	<p>3 「こう?」「そう/ちがう」の意味を理解し、表現する。</p> <p>① イラストを見て、役割読みをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こう?」と尋ねる。教師が「そう/ちがう」と答える。 ・役割を替えて「こう?」「そう」「ちがう」の練習をする。 <p>② はさみや鉛筆の持ち方や使い方について、「こう?」と質問したり、「そう/ちがう」と答えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・便器の使い方や整列の「前ならえ」が間違っているイラスト例を使うとよい。正しいイラストも用意する。 ・正しく鉛筆が持っていない児童には、本時で正しい持ち方を指導するとよい。
20	<p>4 やり方を尋ねたり、答えたりする練習をする。</p> <p>① イラストを見て「こう?」と質問し、教師が「そう/ちがう」と答える。</p> <p>② 同じイラストを使って、児童生徒同士で質問したり、答えたりする。</p> <p>③ 吹き出しに当てはまる言葉を記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうきの使い方や平仮名の書き順が間違っているイラスト例を使うとよい。正しいイラストも用意する。 ・本時の学習後も、日常生活の中で、「こう?」「そう/ちがう」という応答を意図的に行うようにする。

凡例:・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう10

目標：「み・む・め」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「み・む・め」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「み・む・め」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「み・む・め」を読むのに続いて、「み・む・め」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「み・む・め」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、ま行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ ま行の平仮名カード二組でばばぬきをする。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p> <p>★平仮名カード（12 参照）</p>
20	<p>2 「み・む・め」の入っている言葉を読んで、書く。</p> <p>① 「みみ」や「むね」など「み・む・め」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、まねして読む。 (例) みみ、むね、め</p> <p>② ノートに平仮名「み・む・め」を書く。</p> <p>③ 教師が絵カードの名前を読むのを聞いて、まねをして読み、ノートに平仮名で書く。 (例) かみ、みみ、め 等</p>	<p>・絵と文字の入った絵カードを用意する。</p> <p>・体の部位を理解させるため、『あたま、かた、ひざ、ぽん』の歌を歌うのもよい。</p>
5	<p>3 平仮名当てゲームをする。</p> <p>○ 半分字が隠れている平仮名を見て、何の字が隠れているか、考えられ物を全て答える。 (例) ま・み・め・む・ひ・は・ふ・へ め右隠す→め、ぬ の左隠す→の、め に右隠す→に、け、は、ほ</p>	<p>・平仮名当てゲーム（10 参照）の隠し方を左右に変えるとよい。</p>
5	<p>4 今日の学習の復習をする。</p> <p>○ 「むし」「や」「うみ」など「み・む・め」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、まねして読む。 (例) むし、うみ、しま、ふね、かめ、あみ いし、すな、すなはま、て、つめ 等</p>	<p>・母語が分かる児童生徒は日本語と母語を記入する語彙ノートを作るとよい。</p>

凡例：・留意点 ★教材

教科の名前を読もう

目標：国語・社会・算数(数学)など教科の内容を理解し、読むことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<p>指導上の留意点・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
20	<p>3 教科名やその内容を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師が教科書を見せながら、国語、算数(数学)、理科、社会、体育(保健体育)、音楽、図工(美術)、家庭(技術・家庭)、英語等の教科・領域名を言うのを聞いて、繰り返す。 ② 教科の名前をシールに平仮名(ローマ字)で書いて、自分の教科書に貼る。 ③ 教科書の中の写真やイラストを見たり、「小学校入学への手引」を読んだりして、教科の内容を理解する。 ④ 教師がイラストを指して教科名を言うのを聞いて、繰り返す。 ⑤ 教科名を平仮名で書く。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★教科書</p> <p>全ての児童生徒が使用している教科書を用意する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・『小学校入学への手引～1年生になるまえに～』P.4を参照する。 ・児童生徒の発達段階に合わせて、覚えさせたい。教科名の数を考慮する。
10	<p>4 教科名の質問に答える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 黒板に書いた「べんきょう」という言葉を2～3回読む。 ② 教師が示した教科書を見て、「国語／社会」のどちらかを答える。 ③ 教師が示したイラストを見て、「国語／理科」のどちらかを答える。 ④ 教師の「何の勉強？」という質問に答える。 (例)「何の勉強？」→算数(の勉強) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際」等、その学校の日本語初期指導教室の名前も教えるとよい。 <p>★教科が分かる学習内容のイラストを用意する。</p>
10	<p>5 「～の本」「～の先生」の言い方を練習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師が教科書を見せて「国語の本」と言うのを聞き、繰り返す。 ② イラストを用いて、「～の先生」と言う練習をする。 (例)理科、先生→理科の先生 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の教科書でも同様な活動を行う。 <p>★教科が分かる教科書や教師のイラストを用意する。</p>

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう 11

目標：「も・や・ゆ」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「も・や・ゆ」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「も・や・ゆ」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「も・や・ゆ」を読むのに続いて、「も・や・ゆ」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「も・や・ゆ」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、ま行、や行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ ま行、や行の平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p>	<p>★平仮名表 (1 参照)</p> <p>★「あいうえおの歌」 (2 参照)</p> <p>★平仮名カード (12 参照)</p> <p>・ばば抜き行ってもよい。</p>
20	<p>2 「も・や・ゆ」の入っている言葉を読んで、書く。</p> <p>① 「くも」や「やま」など「も・や・ゆ」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、まねして読む。 (例) くも、やま、ゆき 等</p> <p>② ノートに平仮名「も・や・ゆ」を書く。</p> <p>③ 教師がイラストの名前を読むのを聞いて、まねをして読み、ノートに平仮名で書く。 (例) いと、ひも、やね 等</p>	<p>・絵と文字の入った絵カードを用意する。</p> <p>・糸とひもは分かりにくいので、実物を用意するとよい。</p>
5	<p>3 既習の平仮名を書く。</p> <p>○ ローマ字を読んで、平仮名を書く。 ・似ている2字ずつを書く。 (例) しも なた えん せや にこ うつ ねゆ ぬね ちさ はほ 等</p>	<p>・ローマ字が未習の児童生徒は、教師が音読した文字を書く。</p>
5	<p>4 既習の言葉の復習をする。</p> <p>○ ローマ字を平仮名にして、言葉と絵を線で結ぶ。 (例) やま、ひも、ゆみ、やね、くも 等</p>	<p>・ローマ字が未習の児童生徒には、教師がローマ字を読む。</p>

凡例：・留意点 ★教材

曜日を読もう

目標：日曜日から土曜日までの曜日を読み、表現することができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	1 挨拶をする。 ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 2 絵本の朗読を聞く。 ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。	指導上の留意点・教材 ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
10	3 カレンダーで曜日を読む練習をする。 ① 教師がカレンダーの曜日の部分を指して、日曜日から順番に曜日を言うのを聞いて、繰り返す。 ② 『曜日の歌』を歌う。 (例)にち げつ か すい もく きん もく きん どうようび つぎは にちようび	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ★カレンダー 曜日にふりがなが付いている物を用意する。 </div> ・Sunday Monday Tuesday … … Sunday comes again. の替え歌
15	4 自作のカレンダーを使って、日付や曜日の質問に答える練習をする。 ① カレンダーを作る。 ・日にちと曜日を書く。 ・日曜日と祝日を赤、土曜日を青で塗る。 ② 教師の「～日、何曜日」という質問を聞いて、曜日を答える。	★カレンダーの枠 ・時間がかかりそうなら、曜日だけ記入させる。 ・一日、二日など特別な言い方は「いちにち」「ににち」でいい。
15	5 時間割の使い方を理解し、質問に答える練習をする。 ① 教科の名前の復習をする。 ② 時間割を見て、教師の質問に「ある／ない」で答える。 (例)「月曜日、さんすう、ある？ない？」 →「ある／ない」 ③ 時間割を見て、教師の質問に曜日で答える。 (例)「ずこう、なんようび？」→「～ようび」	★時間割例 ・ 31 を参照する。 ・児童生徒に好きな時間割を作らせてもいい。

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう12

目標：「る・ろ・よ」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「る・ろ・よ」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「る・ろ・よ」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「る・ろ・よ」を読むのに続いて、「る・ろ・よ」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「る・ろ・よ」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、や行、ら行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ や行、ら行の平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p> <p>★平仮名カード（12 参照）</p> <p>・ばば抜き行ってもよい。</p>
20	<p>2 「る・ろ・よ」の入っている言葉を読んで、書く。</p> <p>① 「まる」や「ふろ」など「る・ろ・よ」が入っている言葉を読む教師の声を聞き、後に続いて繰り返す。 (例)まる、ふろ、よん</p> <p>② ノートに平仮名「る・ろ・よ」を書く。</p> <p>③ 教師が絵カードの名前を読むのを聞いて、まねをして読み、ノートに平仮名で書く。 (例)あさ、ひる、よる、しろ、くろ 等</p>	<p>・絵と文字の入った絵カードを用意する。</p>
5	<p>3 身近な動詞を平仮名で書く</p> <p>○ ローマ字を読んで、平仮名を書く (例)おる、きる、ける、とる、ぬる、ねる おきる、ほる、みる 等</p>	<p>・ローマ字が未習の児童生徒は、教師が音読した文字を書く。</p>
5	<p>4 既習の平仮名を書く復習をする。</p> <p>○ ローマ字を平仮名にする。 ・清音41文字（ら、り、れを除く。）を五十音順に書く。</p>	

凡例：・留意点 ★教材

「昨日／今日／明日」を使おう

目標：昨日、今日、明日という言葉を理解し、表現することができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<p>指導上の留意点・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
10	<p>3 カレンダーで曜日を読む練習をする。</p> <p>① 教師がカレンダーの曜日の部分を指して、日曜日から順番に曜日を言うのを聞き、繰り返す。</p> <p>② 『曜日の歌』を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 33を参照する。 ・ 2～3回繰り返す。
15	<p>4 「昨日」「今日」「明日」の使い方を理解し、練習する。</p> <p>① 教師がカレンダーを見せて、今日の日付を指し「きょう」と言うのを聞いて、繰り返す。</p> <p>② 同様に、「きのう」「あした」を言う練習をする。</p> <p>③ 教師の「きょう、なんようび」の質問に、カレンダーを見て答える。</p> <p>④ 「きのう、なんようび」「あした、なんようび」の質問に、カレンダーを見て答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒に今日を母語で何と言うか聞くとよい。 <p>ポルトガル語 Hoje スペイン語 Hoy タガログ語 Ngayon 中国語 今天</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3回繰り返す。
15	<p>5 時間割を見ながら、「今日」「昨日」「明日」の教科を答える練習をする。</p> <p>① 教科書を見せて、教科の名前の復習をする。</p> <p>② 時間割を見ながら、教師の質問に答える。</p> <p>(例)「きょう シャカイある？」 (例)「あした シャカイある？」 (例)「きのう シャカイある？」 →「ある／ない」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 31を参照する。 ・ 2～3回、教科の名前を言う練習をする。 ・ 「昨日」を聞く場合も、ここではまだ過去形は使わないでおく。

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう 13

目標：「ら・り・れ」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「ら・り・れ」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「ら・り・れ」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「ら・り・れ」を読むのに続いて、「ら・り・れ」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「ら・り・れ」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、ら行の平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ ら行の平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p> <p>★平仮名カード（12 参照）</p> <p>・ま行をまぜてもよい。</p>
20	<p>2 「ら・り・れ」の入っている言葉を読んで、書く。</p> <p>① 「さら」や「あり」など「ら・り・れ」が入っている言葉を読む教師の声を聞き、後に続いて繰り返す。 (例)さら、あり、はれ</p> <p>② ノートに平仮名「る・ろ・よ」を書く。</p> <p>③ 教師がイラストの名前を読むのを聞いて、まねをして読み、絵カードに平仮名で書く。 (例)とら、うら、おもて、おしり、とり、あれ、これ、それ 等</p>	<p>・絵と文字の入った絵カードを用意する。</p>
10	<p>3 身近な言葉を平仮名で書く練習をする。</p> <p>○ 絵とローマ字を見て、平仮名を書く。 (例)すき、きらい、からい、あめ、はれゆき、くもり 等</p>	<p>・ローマ字が未習の児童生徒は、教師が音読した文字を書く。</p>

凡例：・留意点 ★教材

丁度の時刻を読もう

目標：10分毎の時刻を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
10	<p>3 数字の復習をする。</p> <p>① 教師が1～12を読むのを聞き、繰り返す。</p> <p>② 教師が5とびで50まで、10とびで100まで読むのを聞いて、繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9 13 17 25 を参照する。 ・繰り返し練習する。
15	<p>4 時刻を理解し、読み書きの練習をする。</p> <p>① 教師が本物やイラストを使って、いろいろな時計を見せながら、「とけい」と言うのを聞いて、繰り返す。</p> <p>② その時刻に合わせたデジタル時計の数字を見せながら「1じ」「2じ」と教師が言うのを聞いて、繰り返す。</p> <p>③ イラストを見て「1じ」「2じ」と言う。言えたら、「1じ」「2じ」と書く。</p> <p>④ 4時、7時、9時の練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がデジタル時計の4:00を見せながら「よじ」と言うのを聞いて、繰り返す。 ・同様に「しちじ」「くじ」の練習をする。 <p>⑤ イラストをみて、「何時？」に答える練習をする。</p>	<p>★時計、イラスト（時計カード）等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アナログやデジタルの両方を用意する。 ・時計の形もいろいろ <ul style="list-style-type: none"> ・アナログ時計を使用してもよい。アナログ時計が読めないようなら、デジタル時計だけで練習する。 ・「よんじ」「ななじ」「きゅうじ」という言い方はさせないように注意する。
15	<p>5 時刻（10分毎）の練習をする。</p> <p>① デジタル時計の1:10を見せて「1じ10ぷん」と言うのを聞き、繰り返す。</p> <p>② 10分、20分、30分……の練習をする。</p> <p>③ デジタル時計のイラストを見て、「〇じ〇ぷん」と答える練習をする。</p> <p>④ イラストを見て、教師の「何時何分」という質問に答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10の後は「ぷん」になることを意識させる。 ・時計は定着するまでに時間がかかるので、あわてず、毎日、時間をかけて指導する。

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう14

目標：「わ・を」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「わ・を」の読み方を練習する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 教師が「わ・を」を読むのを聞く。</p> <p>③ 教師が「わ・を」を読むのに続いて、「わ・を」を読む。 ・2～3回繰り返す。</p> <p>④ 「わ・を」を平仮名表の中から探して、印を付ける。</p> <p>⑤ 平仮名表を見ながら、ら行、わ、を、んの平仮名カードを並べる。</p> <p>⑥ ら行、わ、を、んの平仮名カード二組で神経衰弱をする。</p>	<p>★平仮名表（1 参照）</p> <p>★「あいうえおの歌」（2 参照）</p> <p>★平仮名カード（12 参照）</p> <p>・ばば抜きもよい。</p>
20	<p>2 平仮名「わ・を」と、「わ・を」が入っている言葉や文を読んで、書く。</p> <p>① 「かわ」や「なわ」など「わ」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、まねして読む (例)かわ、なわ、いわ、にわとり</p> <p>② ノートに平仮名「わ・を」を書く。</p> <p>③ 教師がイラストの様子を読むのを聞いて、まねをして読み、ノートに平仮名で書く。 (例)「なわをきる」「けをぬく」</p>	<p>★絵カード（イラスト）を用意する。</p> <p>・「を」の発音は「O」である。「を」を「uo」と発音する区別もあるが、方言でなので留意する。</p> <p>・イラストで確認しながら、くっ付きの「を」を理解させる。</p>
10	<p>3 既習の平仮名を書く復習をする。</p> <p>① あいうえお順に平仮名を書き入れる。 ・各行の1音目は既に入った清音46字を順に書く。</p> <p>② 平仮名の一部を足したり引いたりして、違う平仮名にする。 (例)「さ」に横棒を加えて「き」 「し」に2本横棒を加えて「も」 「に」から第1画を引いて「こ」 「ほ」から第2画を引いて「は」 等</p>	<p>・清音の勉強が全部終わったことをほめる。</p>

凡例：・留意点 ★教材

数を読もう6

目標：3桁の丁度の数を読み、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。 	<p>指導上の留意点・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
5	<p>3 これまで習った数の復習をする。</p> <p>① 5とびで50までの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が5とびで5、10、15……45、50と読むのを聞いて、まねして言う。 <p>② 10とびで90までの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が10とびで10、20……90、と読むのを聞いて、まねして言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 21 25 の学習内容を参照する。
20	<p>4 3桁の丁度の数の読む練習をする。</p> <p>① 教師が数字カード100を見せながら「ひゃく」と言うのを聞いて、まねして言う。</p> <p>② イラストを見て、200、400、500、700、900の読み方を練習する。</p> <p>③ イラストを見て、300、600、800の読み方を練習する。</p> <p>④ 3桁の丁度の数の読み方を練習する。</p> <p>⑤ 数を聞き取って書く練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が言う数を聞き取って書く。 	<p>★お金のイラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・300は「さんびゃく」、600、800は「ろっぴゃく」「はっぴゃく」と、「ひゃく」の読み方が変わることを強調して指導する。
15	<p>5 3桁の数を使ったお金のやりとりを練習する。</p> <p>① お金のイラストを見て□00円という読み方を練習する。</p> <p>② 「いくら？」と金額を質問する練習をする。</p> <p>(例)「〇〇、いくら？」→「200円」</p> <p>③ おもちゃのお金を使い、教師が言った金額を出す練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に質問させて教師が答える。 <p>★おもちゃのお金 (21 参照)</p>

凡例：・留意点 ★教材

平仮名を覚えよう15

目標：平仮名「が・ぎ・ぐ・げ・ご」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 平仮名「がぎぐげご」を声に出して読む。</p> <p>① 教師が平仮名表を示して、清音と濁音を対応させて読むのを聞いて、まねをして読む。</p> <p>② 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>③ 「しゃ、しゅ、しよの歌」を歌う。</p> <p>④ 教師が指さすスピードで、「がぎぐげご」の文字を読む。</p> <p>⑤ か行、が行の平仮名カードそれぞれ二組で神経衰弱をする。</p>	<p>★濁音の入った平仮名表 (6 参照)</p> <p>★「かきくけこ、がぎぐげごの歌」(6 参照)</p> <p>★平仮名カード (12 参照)</p> <p>・ばば抜きもよい。</p>
20	<p>2 平仮名「がぎぐげご」が入っている言葉を書く。</p> <p>① 教師が絵カードに描かれた物の名前を言うのを聞いて平仮名を書く。 (例) かがみ、かぎ、ながぐつ、ひげ、ごみ</p> <p>② 動作をつけて読んでから、書く。 (例) 「うわばき を むぐ」 「うわばき を はく」</p>	<p>★絵と文字の入った絵カードを用意する。</p> <p>・実際に動作を行い、「ぬぐ／はく」を理解させてから書かせる。</p>
10	<p>3 絵本を音読する。</p> <p>① 教師が絵本を読むのを聞く。</p> <p>② 教師が絵本を少しずつ区切って読むのに続けて、みんなで音読する。</p> <p>③ 一人ずつ絵本を音読する。</p>	<p>・慣れるまでは教師が読むのに続けて読ませるようにする。</p> <p>・負担にならないように読む量を調整する。</p>

凡例：・留意点 ★教材